

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・9 vol.432

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



日本一の太鼓パレード盛岡さんさ踊り

〈写真撮影：8月1日(水)、(関連記事：P6)〉

おもな内容

- 巻 頭 言 医歯薬総合研究所の目指すもの —プロジェクト志向型研究拠点の形成—
副学長・医歯薬総合研究所所長 祖父江 憲治
- 表彰の栄誉 共通教育センター物理学科 佐藤 英一 教授が
「Photo-Sonics Achievement Award」を受賞しました
- 特 集 歯科衛生部の取り組み 歯科衛生部 歯科衛生士長 赤松 順子
- トピックス オープンキャンパス2012が行われました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.41 「手掌多汗症」って知っていますか？
呼吸器外科学講座 特任講師 友安 信

医歯薬総合研究所の目指すもの —プロジェクト志向型研究拠点の形成—

副学長
医歯薬総合研究所所長

祖父江 憲 治



平 成23年4月、岩手医科大学全学の基礎と臨床研究拠点として、医歯薬総合研究所が誕生しました。本研究所の基本理念は、医歯薬三学部の垣根を越えた横断的な基礎と臨床分野のプロジェクト志向型研究拠点形成にあります。最初に、各講座で行われる研究と医歯薬総合研究所の研究との住み分けについてお話しします。各講座で従来より行われている研究は、各講座の歴史と研究者の志向により行われてきたもので、研究の独自性という意味で極めて重要な意義を有しています。一方で、科学分野の多様化する研究手法・装置等々の急速な進歩に伴い、世界レベルで戦うには一講座・一教室で対応困難になっているのも事実です。これらを解決すべく、学内研究の横串を入れるべくプロジェクト志向型研究拠点形成を目指しているのが医歯薬総合研究所です。従って本研究所では、十年・二十年後の本学の柱となるような根深く息の長い研究の拠点形成を目的としています。

新 設成った矢巾キャンパスで、超高磁場MRI 診断・病態研究部門、神経科学研究部門、腫瘍生物学研究部門など11の研究部門と動物研究センター、バイオイメーシングセンターなど9の研究センター・研究施設などにより構成され、活発な研究活動が続けられております。文部科学省戦略的研究支援事業による「超高磁場7テスラ MRI を機軸とした生体機能・動態イメージングの学際的研究拠点プロジェクト」では、最

新鋭生体画像解析法である7テスラ MRI を用いて、三学部の基礎と臨床研究者により脳高次機能・脳疾患に関するプロジェクト志向型研究が進行しています。同様に、文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業による「低侵襲医療実現のための患部ターゲティング医療開発研究プロジェクト」では、医歯薬連携トランスレーショナルリサーチと再生医療の開発研究が行われています。

文 部科学省は科学補助金により、沿岸被災地域を中心とした医療復興と生体試料の巨大バンク形成、さらにこの生体試料を用いた解析による次世代型個別化医療開発を目的とした「東北メディカル・メガバンク」を立ち上げました。本学では、当該事業として「いわて東北メディカル・メガバンク機構」を設立しました。この中で、生体試料の解析研究とその成果による次世代型個別化医療開発の中軸を担うのが医歯薬総合研究所です。この「いわて東北メディカル・メガバンク機構」は三学部の基礎・臨床研究者を中心に構成し、「ストレス」をキーワードとするゲノムとオミックス解析を基盤とした次世代型個別化医療開発を行ってまいります。

本 研究所が一步また一步と前進しながら、国際レベルで覇を唱えられる存在にしてまいりたいと考えております。今後とも、学内の皆様方の御参画と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

表彰の栄誉

共通教育センター物理学科 佐藤 英一 教授が

「Photo-Sonics Achievement Award」を受賞しました

このたび、アメリカの高速度イメージング研究会からPhoto-Sonics Achievement Award をいただきました。これは高速度イメージング関連分野では最高峰の賞で、副賞として5,000USドルもいただきました。この賞のスポンサーはアメリカのPhoto-Sonics 社 (<http://www.photosonics.com/>) で、受賞対象者は2年に一度開催される高速度撮影国際会議の審査で決定され、アメリカ代表の Dr. James WALTON から授与しました。いただいた盾には以下のような授賞理由が書かれていました。「for significant contribution to short-pulse x-ray systems and high-speed x-ray imaging systems applied to medical imaging. (医用画像へ応用された短パルス X 線システムと高速度 X 線撮影システムへの多大な功績により)」

国際賞をいただくのはこれで6度目ですが、何度いただいてもうれしいものです。各国の代表 (International Delegate)、小川理事長・学長、物理学科の教室員、東邦大学第三外科の先生方、そして妻に心から感謝いたします。



共通教育センター外国語学科英語分野 ジェイムズ・ホップス 准教授が

「第8回植村研一賞」を受賞しました



共通教育センター外国語学科英語分野のジェイムズ・ホップス准教授は、本年7月21日(土)から二日間にわたり開催された日本医学英語教育学会の学術集会において、第8回植村研一賞を受賞しました。この賞は、創設者である植村研一先生(写真右)の名を冠し、毎年、学術集会における一般演題について、その学術的内容と発表技術の両面で総合的に最も優れた発表を行った演者に対して授与されるもので、翌年の学術集会の会期中に授賞式を行っています。

ホップス准教授は、昨年7月に開催された学術集会において、「Communicative Activities for Medical Terminology Classes」を発表のタイトルとし、医学部第2学年の科目「医学英語入門」のために開発した、学生に楽しく、効果的に医学英語の専門用語を覚えさせる教授法を紹介し、大好評を得ました。

歯学部補綴・インプラント学講座 齊藤 裕美子 助教が

第12回アジア歯科審美学会・第23回日本歯科審美学会学術大会「Poster Award」を受賞しました

歯学部補綴・インプラント学講座の齊藤裕美子助教は、7月20日(金)に開催された第12回アジア歯科審美学会・第23回日本歯科審美学会学術大会において、Poster Award を受賞しました。

受賞演題は「Colorimetric analysis of skin reactions in patch tests」で、歯科用金属によるアレルギーを客観的に評価する為、金属アレルギーが疑われる成人を対象としてパッチテスト金属試薬を貼付した皮膚色を色彩学的に分析し、主観的判定結果と測色による色彩学的判定結果について検討しました。

本研究により、皮膚の発赤反応に色彩学的に特徴的な変化が観察され、客観的指標を示したことは特筆に値し、歯科審美学の社会的価値をゆるぎないものにするとの評価を受けました。





歯科衛生部の取り組み

歯科衛生部 歯科衛生士長 赤松 順子

1 はじめに

岩手医科大学附属病院歯科医療センター歯科衛生部は、杉山芳樹センター長を歯科衛生部長として、士長1名・主任5名を含む35名の歯科衛生士から構成されています。

2 歯科衛生士の業務

歯科衛生士の主な業務は次の3つです。

① 歯科予防処置

むし菌や歯周病にならないための予防的な処置を行います。専用の機械を用いて歯垢や歯石の除去を行い、歯質の強化を目的にフッ素塗布も行います。

② 歯科診療補助

歯科治療が円滑に進むようアシスタントします。患者さんの状態に気を配り、不安や恐怖心を取り除くことを心がけています。また、歯科医師をはじめ診療に関わっている他職種との連携を取って行っています。

③ 歯科保健指導

患者さんに口腔の健康について説明し、適切な歯磨き方法や食事指導などを行うことで口腔を通して健康を支援しています。

3 歯科衛生部の活動内容

口腔ケア外来について

歯学部改革プロジェクトのシステム改革に伴い、歯科衛生士の本来の業務である口腔衛生の管理を主体的に行うことを目的に、平成24年1月に設立された新しい医科歯科連携専門外来です。場所は、歯科医療センター2階にあり、「外来メンテナンス部門」と「院内病棟口腔ケア部門」の2つに分かれています。



外来メンテナンスの様子



病棟での口腔ケアの様子

「外来メンテナンス部門」では、専門外来での治療が終了した方を対象として個別に歯垢の付着状況等口腔内について説明し、その除去方法や食生活を含む生活習慣について指導します。また、歯磨きだけで取り除けない部分については歯科衛生士が専用の機械を用いてクリーニングを行います。ご自身による毎日のお手入れ（セルフケア）と定期的な歯科受診（プロフェッショナルケア）により、口腔内を良好な状態に保つことができます。

「院内病棟口腔ケア部門」は、入院患者さんを対象に感染予防や口腔衛生状態の改善および口腔機能の回復を目的として取り組んでいます。具体的には口腔粘膜炎等でお困りの方、開口が困難で口腔ケアが難しい方、口腔乾燥や口臭が強い方、摂食・嚥下リハビリテーションが必要な方などを医科からの依頼によりベッドサイドに訪問して口腔ケアを行っています。

医科と連携しての取り組み

* 糖尿病教育入院患者さんおよび産科母親学級での講義

糖尿病と歯周病は相互関係があるため、良好な血糖コントロールのためにも口腔管理が大切になります。また、産科母親学級では妊産婦を対象に、お母さんと生まれて来る赤ちゃんの口腔の健康についてお話しています。このような集団を対象とした保健指導も行っています。



糖尿病教育入院患者さんへの講義の様子

*がん緩和ケアチームおよびがん患者・家族サロンでのイベント開催

がん治療における口腔粘膜炎など口腔内のトラブルに対応しています。また、サロンでは「がんとお口のケア」というテーマで3ヶ月に1度、講義と簡単な実技を行い、化学療法や放射線療法の治療中に起こる口腔内の症状の悪化を防ぐためのケア方法を中心に情報提供と啓発活動を行っています。

*栄養サポートチーム（NST）・呼吸サポートチーム（RST）

それぞれ多職種チームの一員として、口腔内に問題があり栄養状態が改善しない場合や人工呼吸器を装着中の患者さんの口腔ケアについて専門的な立場からアドバイスを行っています。



がん患者・家族サロンでの講義の様子

口腔ケアお（を）たすけ隊 ～歯っぴーレターの発行～



歯っぴーレター

看護師が行う口腔ケアの効率アップを目指し「口腔ケアお（を）たすけ隊」を結成して、年4回の広報紙の発行と研修会の企画を行い情報提供しています。平成22年4月に第1号を発行し、今年3年目をむかえたことから今後の方向性を探ることを目的に、院内の看護師を対象としたアンケート調査を行いました。

「歯っぴーレター」は、有効回答817名のうち83.7%に認知されていました。今後アンケート調査結果を分析した上で、広報紙に反映させ還元していきたいと考えています。また、読んだだけでは分からないと感じている場合には、実際に体験できる病棟毎の勉強会も開催可能ですのでご相談ください。

感染症対策チーム

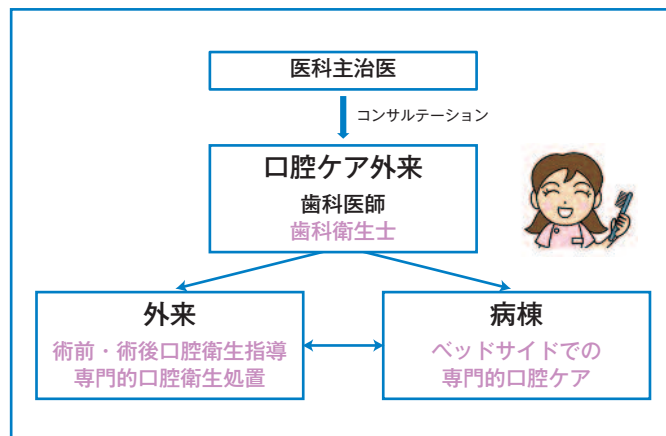
感染症対策室のご指導をいただき、歯科特有の器材などの取扱いやゾーニングなど歯科外来の感染予防に取り組んでいます。

今後の展望として ～周術期の口腔機能管理～

平成24年の診療報酬改定において「周術期における口腔機能管理等、チーム医療の推進」が掲げられました。歯科医療センターでは、がん治療において高い確率で発症する口腔内のトラブルや肺炎などを適切な口腔ケアを行うことで軽減させる取り組みを行います。がん患者さんなどへ手術や化学療法・放射線療法を行う医師と連携し、入院前から入院後を含めての感染予防とQOLの向上を目的に一連の口腔機能管理（専門的口腔ケア）を行う予定で準備を進めています。（平成24年7月現在）



口腔内のトラブル：口腔粘膜炎



周術期口腔機能管理の流れ

4 まとめ

口腔内細菌と全身疾患との関連が明らかになるとともに口腔ケアの重要性が認識されてきています。口腔ケアは、狭義では口腔清掃のことですが、広義では食べる・飲み込む・話すなどの口腔機能のリハビリテーションも含めたものになっています。適切な口腔ケアを行うことで口腔内環境を整え、食べる楽しみや話す喜びを通して患者さんに生活の質を高めて頂きたいと考えています。医科歯科併設の病院に勤務する口腔領域の専門家としてそのメリットを活用し、今後も患者さんの健康支援・増進を目標として活動していきたいと思っておりますのでご理解とご協力をお願い致します。

第33回岩手医科大学市民公開講座が行われました



今年で33回目を迎える市民公開講座が、7月23日(月)から5日間にわたって矢巾キャンパスで行われました。この市民公開講座は、大学開放活動の一環として毎年行われているもので、今年度は「脳を考える」をテーマに8講座が開設され、延べ859名の一般市民の皆さんが受講しました。

参加者は熱心に受講され、貴重な学習の機会となったようです。

(左写真) 健康講座「やわらか頭、してますか?～脳の秘密を探る～」
講師：祖父江副学長

オープンキャンパス2012が行われました

7月28日(土)、7月29日(日)の両日、矢巾キャンパスにおいて「オープンキャンパス2012」が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生とその保護者の方々など延べ843名が参加しました。

当日は、小川学長による大学紹介や希望する学部に分かれてのミニ講義や体験実習のほか、学食の無料体験、在学生とのフリートーク、教員による個別相談、ドクターヘリ基地の見学など盛りだくさんの企画が用意され好評を博しました。参加した高校生らは、大学生活に夢や希望を膨らませていた様子で、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。



医学部体験コーナー「矢巾スキルラボ公開と操作体験」



歯学部体験実習「ニオイノモト～むし歯と歯周病と予防歯科～」



薬学部体験実習「調剤を体験してみよう」

盛岡さんさ踊りに参加しました



附属病院外来玄関前で行われた出陣式

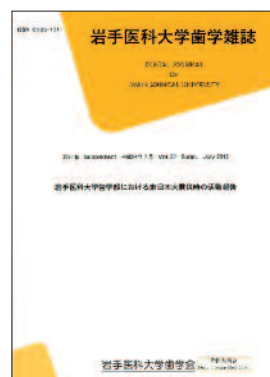
日本一の太鼓パレードと称される「盛岡さんさ踊り」が8月1日(水)から4日間にわたり開催され、本学グループは初日のパレードに参加しました。当日は、パレード前に本学附属病院外来玄関前で出陣式が行われ、職員・学生が患者さんに踊りを披露しました。その後のパレードでは、小川理事長を筆頭に200名以上の職員・学生が中央通りの約1kmの区間を練り歩き、盛岡さんさ踊り第3番の「栄夜差踊り(えいやさおどり)」を披露し、沿道に詰め掛けた観客や大学関係者からの歓声に応えていました。なお、本学の参加は今年で連続31回目となります。

「岩手医科大学歯学部における東日本大震災時の活動報告」の発行について

本学歯学部では、東日本大震災発災直後からの活動記録を歯科医療センターの震災時における状況報告とともに学術雑誌「岩手医科大学歯学雑誌」にまとめました。

この活動報告は、歯学部の大災害時の対応記録集としては本邦初となるもので、震災後の活動記録を「1. 震災直後の対応」「2. 震災後の活動」「3. 東日本大震災被災者健康調査」の順に時系列で記載しており、大災害時の参考マニュアルとして今後の災害支援活動に大きく寄与することが期待されます。

※本誌は国立情報学研究所（CiNii）やメディカルオンライン等の web サイトでアーカイブ化を予定しており、今後電子ファイルとして閲覧・ダウンロードすることができます。



発行人 三浦 廣行
編集委員長 杉山 芳樹

● 理 事 会 報 告 ●

■ 7月定例（7月30日開催）

1. 教育職員の人事について

医学部放射線医学講座 特任教授 吉岡 邦浩（前准教授）

医学部内科学講座 神経内科・老年科分野

准教授 米澤 久司（前講師）

（発令年月日 平成24年10月1日付）

2. 総合情報センター副センター長の選任について

総合情報センター副センター長（新任） 小山 耕太郎

（任期 平成24年8月1日から平成25年3月31日まで）

3. 総合移転整備計画策定委員会からの上申書について

総合移転整備計画策定委員会から理事会に上申された附属病院移転に係る基本方針等について承認。今後の資金計画や消費税増税等の社会的状況に応じ、計画規模や内容変更等も想定に含めて検討していき、関係機関との協議を継続することとした。

すこやか スポーツ医学講座 No. 41

呼吸器外科学講座

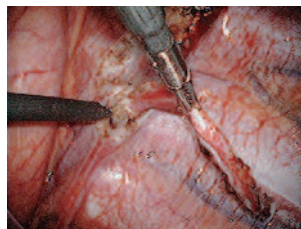
特任講師 友安 信



「手掌多汗症」って知っていますか？

手のひらからの異常発汗で、単なる汗かきのレベルを超え、症状によって日常生活に支障をきたしている場合を手掌多汗症と呼んでいます。交感神経の過剰興奮によると考えられていますが原因は不明です。多くは幼少時に発症し思春期に増悪します。具体的には手のひらから汗がしたり落ち、書類が濡れて字がにじんだり破れたりする、握手ができないなど、肉体的苦痛のみならず精神的苦痛や不快感も伴うようになります。

治療としては、塩化アルミニウム液の塗布、イオンフォレーシス療法、A型ボツリヌス毒素療法、内服治療などがありますが、どれも効果はあまり期待できません。唯一、経皮的交感神経ブロックや星状神経ブロック等の神経ブロック療法には効果がありますが、残念ながら恒久的な効果は得られません。恒久確実な効果を得る方法としては手術療法である胸腔鏡下胸部交感神経幹遮断術があります。これには神経節を含めて交感神経幹を切除する方法(当科)と、交感神経幹を肋骨の上で焼灼切断する方法と、クリップのみかける方法があります。100%再発がないのは切除法ということになりますが、肋間動静脈や奇静脈などが錯綜する部位であり技術的には難



術中写真
(左胸部交感神経幹切除)



術中写真
(右胸部交感神経幹切除)

しくなります。遮断部位としては古典的には第2～3肋骨レベルでしたが、現在は当科を含めて第3～4肋骨レベルが多く、腋窩発汗を伴う場合はさらに4～5肋骨レベルまで延長します。手術時間は片側約30分程度です。手術直後から劇的な効果が得られますが、不可逆的な合併症もありますので注意を要します。下半身からの代償性発汗はほぼ必発ですし、夏場は上半身のうつ熱が生じ、冬場は手のひらが乾燥します。低侵襲で確実な治療である一方で、若年者対象の不可逆的な治療であることから全国的に訴訟が多いのも事実です。合併症についての丁寧な説明と慎重な手術適応決定(合併症を認容できるほど切実であることが条件)を要することはいうまでもありません。

第101回大学報編集委員会

日 時：平成24年9月13日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、佐藤 仁、山尾 寿子、佐々木 光政、米澤 裕司、昆 由美子、佐々木 忠司、武藤 千恵子、野里 三津子

編集後記

暑かった今年の夏、世間ではロンドンオリンピックでの日本人選手の活躍をはじめ、Hot な話題が多かったように思います。本学においても、盛岡さんさ踊りへの参加やオープンキャンパスの開催などがあり、職員の皆さんの熱い姿やその盛況ぶりを紙面を通してお伝えできたのではないのでしょうか。これからだんだんと涼しくなり、季節は秋へと移り変わりますが、大学報では今後もその時々 Hot な話題をお届けしていきたいと思います。

(編集委員 昆 由美子)

岩手医科大学報 第432号

発行年月日 平成24年9月30日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp